

# ESD・ユネスコスクールの普及・推進に資する

## 教育学研究科における取組及び評価に関する研究（3）

研究代表者 由井 義通（社会認識教育学講座）  
研究分担者 深澤 清治（英語教育学講座）  
山田 浩之（教育学講座）  
三根 和浪（造形芸術教育学講座）  
富川 光（自然システム教育学講座）  
島津 礼子（グローバル教育推進室）

### I 研究の背景と目的

#### 1. 研究の背景

環境、貧困、平和などの様々な今日的な課題に対して、ESD（持続可能な開発のための教育：Education for Sustainable Development）とは、これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む（think globally, act locally）ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動である。ESDは、平成20年版学習指導要領において推進の必要性が示され、次期学習指導要領においては、よりその重要性が強調されるものと思われる。ESDは、これからの学校教育のあるべき姿を示す理念の一つであり、この実現のためにユネスコスクールが果たすべき役割は大きい。このような背景のもと文部科学省においても、グローバル人材の育成とESDの実践の質的向上を目的として、平成26年度より「グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業」を開始している。

平成28年度、広島大学大学院教育学研究科は、ESD・ユネスコスクールの普及・推進を行うために、広島ESDコンソーシアムを設立した。本コンソーシアムは、グローバル人材を育成する教員を研修・養成することを目的とし、大学を推進拠点として、教育委員会、ユネスコスクール、地域等が一体となって連携と情報交換を図るものである。

#### 2. 研究の目的

本研究は、ユネスコスクール大学間支援ネットワーク（ASPUnivNet）ならびに広島ESDコンソーシアムの一員として、広島大学大学院教育学研究科がESD・ユネスコスクールの普及・推進に資する取り組みを明らかにし、本年度の活動を検証することを目的とする。本研究科が、広島県及び山口県内のユネスコスクール加盟校を支援するとともに、ESDを推進する教員や学生を対象とする研修会を実施するなど、ESD・ユネスコスクールの普及・推進のための事業に取り組むことにより、ユネスコスクールの支援や拡大と、ESDの普及に資することができる。さらには、その取り組みを評価し検証することにより、本研究科の果たすべき役割を具体的に検討することができる。

（由井義通\*・島津礼子\*）

## Ⅱ 平成 28 年度における教育学研究科ユネスコスクール委員会の取組

### 1. ユネスコスクール加盟申請支援とユネスコスクールとの交流支援

ユネスコスクール加盟申請支援を行うとともに、広島県及び山口県内のユネスコスクールの活動の支援を行い、進め方の検討を行った。2016 年度は、広島市立矢野西小学校、廿日市市立大野西小学校・大野中学校（小中一貫校）、広島市立湯来中学校、広島市立幟町中学校の新規加盟申請を支援している。

国内では、ユネスコスクールである沖縄県中頭郡北谷町立北谷中学校を訪問し、ユネスコスクールとしての活動内容の説明を受け、沖縄県教育委員会のユネスコスクール担当者や沖縄県ユネスコ協会担当者と ESD に関して意見交換をした。また、その会には広島大学ユネスコクラブも参加し、ユネスコ活動や ESD の普及促進について 2 時間近く議論して、交流を行った。また、ユネスコスクールの国際交流として、韓国のミチュホル外国語高等学校との交流を支援した。

### 2. 日本/ユネスコパートナーシップ事業への参加

ASPUnivNet の第 1 回連絡会議（平成 28 年 6 月 26 日）、第 2 回連絡会議（同 12 月 4 日）にユネスコスクール委員会委員（深澤、富川）が出席し、ASPUnivNet 加盟大学との交流ならびに情報交換を行った。第 1 回連絡会議では、ASPUnivNet の今後のあり方について議論した。第 2 回連絡会議においては、本研究科が ASPUnivNet の運営委員に参画することが決定した。

（由井義通\*・島津礼子\*）

### 3. 広島 ESD コンソーシアムの設立

文部科学省が ESD の取組を推進強化するために平成 26 年度より開始した「グローバル人材の育成に向けた ESD の推進事業」を行うために、平成 28 年 4 月、広島 ESD コンソーシアムを設立した。本事業は、広島大学が中心となり、広島県内の教員養成系大学、教育委員会、ESD の推進拠点であるユネスコスクール連絡協議会、ESD を推進している企業等とともにコンソーシアムを形成し、さらなる ESD の推進を図るものである。コンソーシアム内の連携をとりながら地域において ESD を実践することにより、ユネスコスクール以外への ESD の普及を図るとともに、国内外のユネスコスクール間の交流の促進を通じ、国際的視野を持つグローバルな人材の裾野を広げることを目的とした。

ESD は持続可能な社会づくりの担い手を育む教育であるが、これまで教育学系大学の授業や教員免許更新講習などにおいて、ESD を授業名としたものは非常に少なく、また先進的なドイツにおける教員研修のような全国的組織もなく、担い手をはぐくむ主体である教員の研修と将来の教員に対する学生への研修に、積極的かつ組織的に取り組むことが課題であった。ゆえに、ESD の推進のために、ESD を担う教員の研修強化とともに教員を志望する大学生・大学院生への教育が重要であり、個別の大学における取り組みとともに大学間の連携によってより効果的に研修を企画運営することが重要である。このような課題を背景として、ASPUnivNet 連絡会議に加盟し、ESD の普及発展に取り組んでいる広島大学大学院教育学研究科を代表とするコンソーシアムは、教育現場においてグローバル人材の育成をめざして、ESD の実践を担うリーダー的教員やそのような教師を目指す学生を育成

することを目的とした。今日の世界的課題を考え、解決に取り組むことができるグローバル人材を育成することができる教員を育てるために、広島大学が代表団体となり、広島県内の教員養成学部・学科をもつ大学、県市町の教育委員会、企業、各種機関が構成団体となった、グローバル人材の育成をテーマとしたコンソーシアムを設立したものである。

広島 ESD コンソーシアムを構成する団体は、下図の通りである。

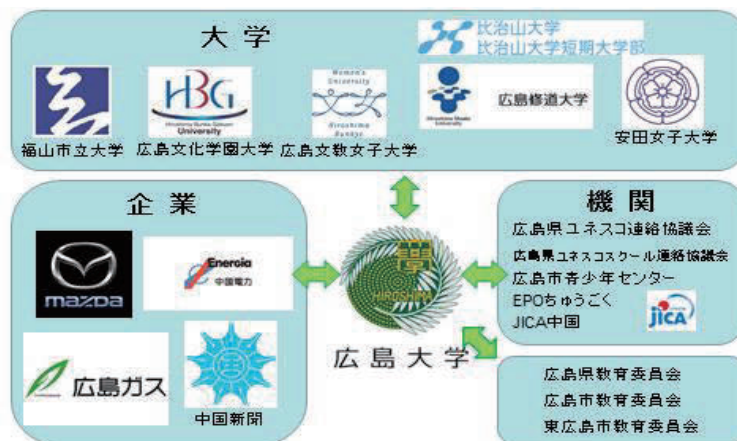


図1 広島 ESD コンソーシアム構成団体

(由井義通\*・富川 光\*・島津礼子\*)

### Ⅲ 広島 ESD コンソーシアムにおける取組

#### 1. 2016 年度 広島 ESD コンソーシアム研修会

##### (1) 日時・会場等

日時 2016年8月5日(金) 10:00～16:10

場所 広島大学東千田未来創生センター(広島市中区東千田町)

対象 幼稚園教員、小・中・高等学校等教員、大学生、大学院生、大学教員、ESD に関する NGO など

主催 広島大学大学院教育学研究科ユネスコスクール委員会

共催 広島県ユネスコ連絡協議会

協賛 広島県ユネスコスクール連絡協議会

後援 広島県教育委員会・広島市教育委員会・東広島市教育委員会・比治山大学・  
広島修道大学・広島文化学園大学・広島文教女子大学・福山市立大学・  
安田女子大学・中国新聞社・ASPUnivNet・IYGU 地域活動センター

##### (2) プログラム

###### 【午前の部 実践研究発表】

1. 広島大学附属小学校 教諭 西原 美幸氏「グローバル人材育成と小学校英語科」
2. 広島県立広島中学校 教諭 物見 優氏  
『持続可能な社会』づくりの担い手を育むディベートの授業」
3. 広島県立呉三津田高等学校 教諭 頼岡 由美氏 「詩のボクシング」  
コメント 福山市立大学 教授 田淵 五十生氏

広島大学 教授 深澤 清治氏

【午後の部 講演ーグローバル人材育成のためのコミュニケーション能力の育成ー】

1. 文部科学省・国立教育政策研究所 教科調査官 濱野 清氏  
「対話や学習者中心の授業を支える ESD」
2. 広島修道大学 教授 菅尾 尚代氏  
「ダンス教育によるコミュニケーション能力の育成」
3. 東北学院大学 准教授 渡辺 通子氏  
「国語教育史から学ぶコミュニケーション能力ー『話さない』ことは『考えていない』ことかー」
4. 愛媛大学 准教授 吉村 直道氏  
「協調的な学力，数学的な態度に貢献する数学的コミュニケーション」  
コメント 広島市立大学 准教授 卜部 匡司氏  
「21 世紀型学力と ESD」

(3) 内容

午前の部の実践研究発表においては，小学校，中学校，高等学校のそれぞれの学校においてグローバル人材の育成やコミュニケーション能力の育成を目的とした，独自の取り組みを発表頂いた。広島大学附属小学校では，第一学年から英語が教科として導入され，カリキュラム開発とデータによる検証と評価が体系的に行われていることについて報告を頂いた。広島県立広島中学校では，ESD の基盤となる「体系的な思考力，批判力」「データや情報の分析力」を育成するための「ことば科」の授業について発表を頂いた。広島県立呉三津田高等学校では，伝統的に全校で「詩のボクシング」が取り込まれ，表現し他者へ伝える能力のみならず聴く力，協働する力が醸成されることについてお話を頂いた。これらの実践報告に対し，福山市立大学 田淵五十生氏，広島大学 深澤清治氏よりコメントを頂いた。

午後の部では，グローバル人材育成のためのコミュニケーション能力の育成をテーマとして，4名の講師から教科教育における ESD の観点について講演を頂いた。文部科学省・国立教育政策研究所 濱野 清氏からは，社会科教育の観点から，次期学習指導要領改訂を踏まえ，アクティブ・ラーニングによりもたらされる生徒の深い学び，質の高い理解についてお話を頂いた。広島修道大学 菅尾尚代氏からは，ダンスという身体表現活動を通して共感や相互伝達，協働をすることが国際理解や伝統文化遺産の継承，コミュニケーション能力の育成につながることについてお話を頂いた。東北学院大学 渡辺通子氏からは，国語科教育におけるコミュニケーション能力の定義と，アクティブ・ラーニング型の授業デザインにおける効果と課題について，講演を頂いた。愛媛大学 吉村直道氏からは，数学教育の観点から，グローバル人材育成に関連した数学的な態度や協調的な学力，数学的コミュニケーションを中心とした学習について講演を頂いた。最後に，広島市立大学 卜部匡司氏より，21 世紀型学力と ESD の関係についてお話を頂いた。

#### (4) 研修会の評価

本研修会には、大学教員・学生・現職教員、行政関係者など 185 人が参加した。参加者を対象に、研修会において配布、回収したアンケートにおいて、本研修会が ESD 実践のために参考になったという意見は 82 名であり、次回研修会に参加を希望する人は 72 名であった。今後研修会で取り上げてほしいテーマとしては、幼児教育、教科横断的なテーマ、異文化理解教育、平和学習、シティズンシップ教育などが挙げられた。本研修会の感想として、コミュニケーション能力とはどういうものなのかということを経験した教科の観点から考えることができた、ESD、21 世紀型学力、アクティブ・ラーニングの関連性について理解できた、ESD 授業の実践報告が参考になり、自分の授業にも活かせるものがあったなどの意見があった。課題としては、参加型の研修を求める声や、実践についてもっと詳しく聴きたいなどの要望があり、今後検討する必要がある。



図 2 午前の部 実践研究発表

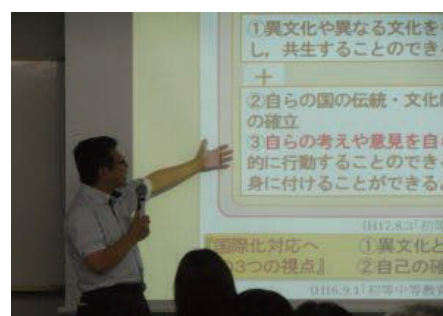


図 3 午後の部 講演

## 2. 第 3 回広島県ユネスコ ESD 大賞表彰式・ ESD 研修会—ESD の今後の展望—

### (1) 日時・会場等

日時 2016 年 12 月 10 日 (土) 10:00～16:50

場所 広島大学大学院教育学研究科 L205 講義室 (東広島市鏡山 1-1-1)

対象 幼稚園教員、小・中・高等学校等教員、大学生、大学院生、大学教員、ESD に関する NGO など

主催 広島県ユネスコスクール連絡協議会、広島県ユネスコ連絡協議会、広島 ESD コンソーシアム、国際地球年 (IYGU) 日本地域活動センター、広島 ESD・ユネスコスクール研究会

### (2) プログラム

【午前の部 第 3 回広島県ユネスコ ESD 大賞表彰式】

○広島県ユネスコ ESD 大賞

1. 小・中学校等部門：熊野町立熊野中学校

「地域の伝統と継承を目指して—筆をテーマに—」

2. 高等学校等部門：広島大学附属高等学校

「教師が“つながる”・教育活動を“つなげる”—ユネスコスクールとして取り組んだ ESD の 10 年」

3. 社会部門：地球市民共育塾ひろしま  
「活動と参加型教材づくり」
  4. 映像部門（学校）：福山市立駅家西小学校  
「自律と共生を目指し、主体的・協同的に学ぶ子どもの育成  
－ESDの視点を取り入れた授業づくりを目指して－」
  5. 個人（学校部門）：沖西 啓子氏（広島大学附属小学校）  
「ラムサール条約登録地の宮島から世界の環境保全を考えよう」
- 広島大学教育学研究科長賞
- ・ 広島県立府中高等学校  
「ESDの視点を踏まえた政治的教養の教育の実践」

【午後の部 基調講演・実践発表】

○基調講演

沖縄科学技術大学院大学 理事長補佐 浅井 孝司氏

「持続可能な社会の構築を目指して－ESDの軌跡と今後の展望」

○実践発表

1. 尾道市立山波小学校 教諭 岡田 将平氏  
「ESDの視点に基づいた『総合的な学習の時間』」
2. 福山市立福山中学校 教諭 八幡 愛氏  
「ESDの視点で取り組む授業，その他領域での実践  
－オーストラリア・韓国からの生徒を迎えて－」
3. 英数学館高等学校 教諭 比羅岡 信子氏  
「総合学習としてのESD」
4. 韓国ミチュホル外国語高等学校 教諭 ノ キョンヨン氏  
「ミチュホル外国語高等学校におけるESD」
5. 広島県立高陽高等学校 教諭 秋元 美輝氏  
「オランダ・ドイツESD研修旅行報告・実践発表  
－広島のみちづくり・再開発を考えよう～ドイツのリーム地区を事例に～」

○ポスター発表

広島大学ユネスコクラブ

「広島大学ユネスコクラブの紹介」

「世界の難民の実情」

「難民の生活状況について」

「ESDを用いた『難民』の授業提案」

「ESD研修旅行①，②」

○指導助言

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター教育協力部長 進藤 由美氏

○全体総括

元ユネスコ国内委員会委員 榎田 好一氏

### (3) 内容

午前の部では、第3回広島県ユネスコESD大賞表彰式を開催した。広島県ユネスコESD大賞各部門と、広島大学教育学研究科長賞を受賞した団体・個人を表彰した。表彰団体による実践発表を行ったのち、ユネスコ・アジア文化センター 進藤由美氏より総評を頂いた。

午後の部では、沖縄科学技術大学院大学 浅井孝司氏より、「持続可能な社会の構築を目指して—ESDの軌跡と今後の展望」と題した基調講演を頂いた。講演ではESDの系譜、その内容や実践方法、近年のESDに関する動きについてお話して頂いた。実践発表では、尾道市立山波小学校から総合的な学習の時間を利用した地域を学ぶ取り組み、福山市立福山小学校から海外の姉妹校や提携校との交流とそれを生かした授業実践、英数学館高等学校から捕鯨やTPP、食糧危機を考えることによりグローバル・リーダーとしての資質を育てる取り組みについて発表を頂いた。海外のユネスコスクールである韓国ミチュホル外国語高等学校からは、持続可能な発展に関連した行事として行われているリベラルアーツ・キャンプ、多文化理解の日、ESDに関連した部活動などの報告を頂いた。広島県立広陽高等学校 秋元美輝氏から、オランダ・ドイツESD研修旅行報告とその知見を取り入れた授業実践報告を頂いた。これらの報告に対し、ユネスコ・アジア文化センター 進藤由美氏より総評を頂いた。最後に元ユネスコ国内委員会委員 榎田好一氏より研修会全体を総括して話を頂いた。

### (4) 研修会の評価

本研修会の参加者は、大学教員・学生・現職教員、行政関係者など223名であった。研修会において配布、回収したアンケートには、生徒に考えさせるテーマ設定が参考になった、実践で陥りがちな失敗パターンが紹介され、「こうならないようにするためには・・・」という視点を持つことができた、海外と日本の取り組みの違いがわかった、などの意見が寄せられた。課題は、アクティブ・ラーニングの方法を取り入れた研修会の開催や、小・中・高等学校に分けた分科会形式の研修会の開催に対する要望があった点である。また、今後取り上げてほしい研修会のテーマとして、次期学習指導要領とESDの関係に対する要望が多くあったため、次期研修会開催にあたり、検討課題とした。



図4 午前の部 広島県ユネスコESD大賞表彰式



図5 午後の部 基調講演・実践発表

(島津礼子\*)

### 3. ESD 研修旅行

#### 1. 日時・旅程・参加者

ESD 研修旅行は下記のスケジュールで実施された。参加者は、引率2名（教員，日本学術振興会特別研究員），現職教員（小学校，中学校，高等学校）3名，学部生1名，大学院生1名の計7名であった。

##### 【日時・旅程】

2016年8月18日	広島空港→羽田・ミュンヘン経由→アムステルダム
2016年8月19日	アムステルダム→ライデン（Naturalis Biodiversity Center ナチュラリス生物多様性センター）→アムステルダム（Anne Frank Huis アンネフランクの家）
2016年8月20日	アムステルダム→ミュンヘン
2016年8月21日	ミュンヘン→ニュルンベルク（Dokumentationszentrum Reichsparteitagsgelände ドク・ツェントルム ナチス党大会会場跡）→ミュンヘン
2016年8月22日	ミュンヘン（KZ-Gedenkstätte Dachau ダッハウ強制収容所跡，Riem Viertel リーム地区：空港跡地の再開発地区）→羽田
2016年8月23日	羽田経由→広島空港

#### 2. 研修内容

本研修旅行は，ESD を実践できる人材の育成を目的とし，現職教員および教職志望の学生を対象に，オランダ・ドイツにおける ESD の内容に関連した施設や博物館の見学を行った。今回は特に欧州における持続可能な社会の構築に向けた具体的な取り組みや，その背景を知る，ESD 実践の意義や必要性を（再）認識する，ESD 教材開発・実践のための視点（具体例）や資料を獲得することを目的とした。

##### 【環境教育】

現在，人間活動による地球環境の変化やエネルギーの枯渇などが地球規模の問題となっている。そのため，「持続可能な開発」を実現するためには，これらの環境問題・エネルギー問題に対峙するための態度や能力の育成が必要不可欠である。ここでは「生物多様性とその保全」をコンテンツとして，我々を取り巻く生態系が直面する地球的・地域的な問題

をとらえ，環境問題への対処に向けた態度というコンピテンシーの育成を目的として，体験型の展示がなされているナチ



図6 ナチュラリス生物多様性センター



図7 ナチュラリス生物多様性センター見学



ユラリス生物多様性センター等を見学し、情報収集を行った。

### 【国際理解・平和教育】

戦争の無い平和な世界を実現するためには、文化の異なる国々への国際理解と平和教育が欠かせない。ここでは、第二次世界大戦における欧州の実情を把握することで、現在も世界各地で続いている国際紛争に対峙し、平和を希求する態度というコンピテンシーの育成を目的とした研修を行った。参加者が加害者と被害者の両立場から第二次世界大戦を客観的に捉え、学習できるように、被害者の立場から戦時中の被害を展示するアンネフランクの家及びバラック（復元）やガス室・火葬場が残る強制収容所跡、加害者の立場から戦争が起こった背景や証言が展示されるドク・ツェントルムを訪問先としては、第二次世界



図8 ダッハウ強制収容所跡



図9 ダッハウ強制収容所跡見学の様子

大戦時における戦争の悲惨さを示す象徴的存在であるアンネフランク博物館やダッハウ強制収容所跡等を見学し、情報収集を行った。

### 【社会参画の能力と態度の育成（シティズンシップ教育）】

現代社会では、社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、生涯にわたって生き抜く力や地域の課題解決を主体的に担うことができる力を身に付けられることが求められて



図10 リーム地区

いる。今回は、都市計画をコンテンツとして、身近な地域の問題をとらえ、社会参画の態度というコンピテンシーの育成を目的とした研修を行った。訪問先は、空港閉鎖後の環境及び社会階層の混住、職住一致、住民参加が意識され再開発されたリーム地区とし、個々人の直面する課題や社会の多様な課題への対応について議論・情報収集を行った。

## 3. 評価

本研修旅行では、環境教育、国際理解・平和教育、シティズンシップ教育といった多様な観点からESDについて体験的に学習することができた。研修旅行終了後、現職教員は即戦力として研究会、校内研修、研究授業、通常の教科教育等において本研修の成果を教育現場に還元している。また、大学院生・学生は自身の知識・技能の向上はもとより、ユネスコスクール活動を通じたESDに関する情報の共有化も行っている。このように本研修旅行は大きな教育的成果を挙げたと考える。今後は、現地の学校や教育委員会等の教育関連施設への訪問を行うことで、より教育的実践に即した研修が可能になるだろう。

(富川 光\*)

#### 4. 大学生によるユネスコクラブの支援

広島大学ユネスコクラブは、教員志望の学生が平和の創造のために多面的な価値観や視点を養い、世界に羽ばたく人材を育成する力をつけることを目的に設立された。活動理念として次の3点を設定している。

- ①学ぶ：勉強会やスタディーツアーを通して世界の諸問題を知る
- ②繋ぐ：ユネスコスクールを中心とした中学生・高校生・大学生の連携の基軸になる
- ③考える：若者が集い、未来について多様な視点から考える場を作る

クラブに所属する学生は、年度ごとにテーマを設け、それを基軸として活動を展開している。2016年度は、「なぜ、難民が発生するのか」をテーマとし、週に一度の勉強会において、テーマに基づいた発表と議論を行っている。活動の成果をユネスコクラブ全国サミット、12月に開催したESD研修会等の場において発表した。コンソーシアム事業において、広島大学ユネスコクラブに所属する学生を、オランダ・ドイツESD研修旅行、沖縄研修旅行、ユネスコクラブ全国サミット、ユネスコスクール全国大会に派遣するなどの支援を行った。

(島津礼子\*)

#### IV 研究の成果と今後の課題

広島大学大学院教育学研究科は、平成28年度文部科学省の「平成28年度ユネスコ活動費補助金 グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業」に採択され、ESD・ユネスコスクールの普及・推進を行うために、「グローバル人材を育成する教員を研修・養成するためのESDコンソーシアム」として広島ESDコンソーシアムを設立した。本共同研究プロジェクトは、それと連動して活動するものである。広島ESDコンソーシアムは、広島大学のグローバル人材育成の取り組みとも連携し、グローバル人材を育成する教員を研修・養成することを目的とし、教育委員会、ユネスコスクール、地域等が一体となった各種の企画を実施した。

特に、持続可能な社会を形成する担い手の育成というESDと関連させたグローバル人材育成をはかることができる教員研修や教員養成を目的としたESD研修会は8月と12月に二回開催し、単なるイベント的な企画ではなく、内容を深く掘り下げた内容の濃い研修会となった。課題としては、研修会だけではなくグローバル人材を育成する教育プログラムの創造のために現職教員と大学生に対して平和・環境・国際理解をテーマとしたワークショップなどの多様な教員研修を企画し、それらの企画に対して教員を志望する学生や大学院生も参加できる体制を作ることである。グローバルマインドを持った持続可能な社会づくりに貢献できる人材を育成する教師教育に力を入れるために、様々なレベルでの多様な研修企画を立てることを課題としたい。

(由井義通\*)